



イベント・シンポジウム等実績報告書 | 配分事業費：620千円

## 第5回SUAC&SPAC連携事業 現代劇上演とシンポジウム

### 目的・趣旨

本学と静岡舞台芸術センターの連携事業として現代劇公演とシンポジウムを開催し、地域に対して芸術文化のメッセージを発信する。またSPACの俳優による現代劇に本学の学生が参加する事で、授業科目「芸術表現B」のテーマである「第一線で活躍する芸術家のもとで、その高度で専門的な芸術表現の本質を体感する」をより積極的な形で成就することを目的とする。

### 日時・場所

平成29年10月9日 静岡文化芸術大学 講堂

### 体制

(実施代表者)	文化政策学部	芸術文化学科	教授	梅若 猶彦
	文化政策学部	芸術文化学科	教授	立入 正之
			理事	高田 和文

### 共催・後援等

(共催) SPAC-静岡県舞台芸術センター

## 内容

実施内容と方法：現代劇「喫茶店のなかの非日常」作／演出：梅若猶彦、配役：SPAC俳優：三島景太氏、片岡佐知子氏、関根淳子氏及び本学学生1名にて上演。照明のオペレーションはSPAC事務局の高林利衣氏によって行われた。音響は梅若ゼミの学生。現代劇上演後開催したシンポジウム「境界線の問題」は立入正之（教授）司会により、パネリストとして上記のSPAC俳優3名に加え、高田和文理事、真嶋氏（梅若ゼミ学生）と梅若の参加で行った。



告知チラシ（表）



告知チラシ（裏）

## 結果・成果

現代劇「喫茶店」の芸術的成果はSPAC俳優3名のシンポジウムでの発言、観客のアンケート結果等から大成功だったと推測される。教育的側面としては、若干1名だったが本学学生の真嶋氏本人の感想としてSPAC俳優と共演し、リハーサルで演技指導を受けるなど稀有な体験をしたという。真嶋氏は当該連携事業のために企画されたインターンシップにも参加している。シンポジウムではSPAC俳優の生の演技論が展開され、また高田理事からは現代における演劇の周辺に起こっている動きがぎけた。観客として参加した本学学生達のアンケートは、劇の難解性を指摘しつつ、感銘を受けたというものが多かった。

